

# 関西学院大学に対する相互評価結果ならびに認証評価結果

## 全学的な視点

### 【評価項目】6 教育内容・方法

#### 総 評

#### 三 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

##### 2 教育内容・方法 (2) 教育方法等

貴大学では、教育の質の向上のためのFD活動の一環として、たとえば、「授業科目別成績統計表」の作成と公開により成績評価の厳格化に結び付けるなどの工夫を行ってきた。また、2005(平成17)年度には、全学的に、GPA(Grade Point Average)制度の導入、FDハンドブック『授業改善のエッセンス』の配布や、授業改善のための研究会の開催を開始した。

学部の授業評価アンケートについても、2005(平成17)年度からは、全学一斉に同一フォームで行っており、結果を公表している。しかし、その結果を授業改善にどのように反映させるのか具体的な方策が明確になっていない。

各学部の年間履修登録単位数の上限については、全学的再検討により2005(平成17)年度には、全学部において1・2年次生は年間50単位未満に再設定した。3年次および4年次生においての同単位数上限が、50単位を上回っていることについては、今後、必要に応じて検討課題とされたい。

シラバスについては、2001(平成13)年から、全学部の全科目において作成している。しかし、特に、神学部のシラバスは、統一した様式で作成されているものの、各回の授業内容など基本的な事柄を欠いているものがあり、教員間で記述に精粗が見られるので、改善すべきである。記載の分量については、文学部と社会学部においても気を付けられたい。

加えて、各研究科では、もともと少人数教育を行っているため、難しい面もあると思われるが、これまでFD活動に組織的に取り組んできたとは言えない。しかし、2006(平成18)年度に、「大学院ファカルティ・デベロップメント部会」が設置され全学的検討が開始されたところなので、今後の活動が期待される。

研究科のシラバスについては、法学研究科において、授業内容の標準化が必要と思われる高度専門職業人養成コースで、詳しいシラバスが作成されていないことには問題がある。また、商学研究科においても、勉学上の選択の参考にも資するようなシラバスの作成および配布が必須と思われる。

## 大学に対する提言

### 二 助 言

#### 1 教育内容・方法 (1) 教育方法等

F D活動の一環である各学部の授業評価アンケートは、2005(平成17)年度からは全学一斉に同一フォームで行っており、結果を公表している。しかし、その結果を授業改善にどのように反映させるのか具体的な方策が明確になっていない。また、各研究科では、これまでF D活動に組織的に取り組んできたとは言えない。しかし、2006(平成18)年度に、「大学院ファカルティ・デベロップメント部会」が設置され全学的検討が開始されたところなので、今後の活動が期待される。